

## 「フィリピンスタディーツアーを通して感じたこと」

ふきのとう舎  
主任支援員 横内

昨年の11月23日から27日の5日間の日程で、県央福祉会国際貢献プロジェクト主催「第3回スタディーツアー」に参加をしてきました。今回で3回目となるツアーですが、過去にはベトナムやカンボジアに行き現地視察を始めとする勉強会が行なわれましたが、第3回目となる今回はフィリピンにて現地視察を始め、現地の人達との交流、現地でのボランティア活動を行ってきました。日本から近いようで遠い国、フィリピン。この国の現状を知り、日本の豊かさと東南アジアの貧しさに向き合うことで、「今、私達は何をすべきか」が今回のツアーのテーマでした。



フィリピンの気温はとても高く、11月末にも関わらず現地の気温は30℃と夏日でした。初日はマニラ市内の世界遺産の見学を行ない、2日目から福祉関係施設やNGO団体等の視察及びボランティア活動を行ないました。現地では実際に障害を持たれた子ども達への昼食支援や、身寄りのないお年寄り達との交流会、また貧困層が多く生活をする地域での昼食作りや配膳、またそこで暮らす子ども達との交流など、忙しくも充実した5日間を終えることが出来ました。

今回のツアーを通して率直に思うことは、とても有意義な体験が出来たということが挙げられます。これまでのツアーのように現地の見学のみを行うだけでなく、実際にそこで暮らす人々、働く人達と交流をすることで、フィリピンという国への理解、引いては貧困について考えさせられたツアーでもありました。

フィリピンの貧困層の暮らしはとても貧しいものでした。まともな教育を受けずに育った子どもも多く、そうして成長した大人はまともな職に就くことも難しいであろうと思われます。貧困層はいつまで経っても貧困のままであるという負のスパイラルが成り立ってしまうのでしょうか。まずは全ての子供達がしっかりと教育を受ける機会を確立することがこの国には求められているのではないかと感じました。

今回のツアーでは寄付も行いましたが、モノやお金の寄付は一過性のものでしかなく、本当の意味での支援にはならないと思います。やはりこの国の将来を担う子ども達にこそ、しっかりと教育を受けてもらい、知識と教養を得て、自分たちの国を自分たちで良くしていこうといった意識の確立こそが大切になってくるのではないのでしょうか。その為にも彼らが本来持っている力を引出し、よりよい社会、国作りを行っていけるように支援を行うことが本当の支援ではないかと感じました。

今回のツアーで自分にとってフィリピンはより身近な国となったことは言うまでもありません。ニュースや新聞などでも話題が出れば、少なくとも目を向ける機会は増えてくると思います。この国を意識しながら、福祉に携わる自分に何が出来るのかを考えていきたいと思っています。

最後に、ツアー3日目のフィリピンの子供達の笑顔がとても印象的で、彼らが大人になった時にも同じように底抜けの笑顔が溢れる国であって欲しいと切に思います。彼らが将来に対して夢や希望を抱ける国であって欲しいと切に願います。

フィリピン人が本来持っている「ピープルパワー」に期待をしながら、またいつの日かこの国を訪れてみたいと思っています。

## ～フィリピンの風景～



「障がいを持たれた子ども達との交流」



「タイヤが無く、ホイールのみで  
使用している車イス。  
実際に使用されています」



「初日に訪問した施設の玄関脇に  
設置されている赤ちゃんポスト。  
フィリピンの貧困を象徴した場所」



「貧困地区の子ども達への昼食作り」



「昼食を食べる現地の子ども達」



「昼食後、子ども達との交流風景」



「フィリピンの街中」



「貧困地区を支える NGO 団体のスタッフ」



### ◆成人を祝う会◆

1月15日(金)の午後に、成人を祝う会を行ないました。今年ふきのとう舎で二十歳になられた方はビルメンテナンズの神山愛理さんでした。ふきのとう舎としては久しぶりの成人ということもあり、我々職員も一緒にお祝い出来る喜びを感じながら参加をさせて頂きました。

当日は職員も正装で参加をし、多くの方から神山さんに向けて祝福の言葉が送られていました。その他にもご本人の生い立ちから現在までをまとめたスライドショーの上映や、ご本人から二十歳を迎えてのメッセージ、最後にはお母様から愛理さんに向けてのお祝いメッセージなどがありました。この日の午後はお祝いムード一色の中での成人を祝う会となりました。

改めまして神山愛理さん、ご成人おめでとうございます！これからの益々のご活躍に期待をしています！！

※当日は青葉会役員の方にもご参加頂きました。お忙しい中でのご出席に感謝申し上げます。